

令和2年度の動物用医薬品の事故防止・被害対応業務において収集した病性鑑定由来細菌の性状調査成績の概要

動物医薬品検査所では、平成7年度から動物用医薬品の使用に伴う事故防止・被害対応業務として、変異、変遷等が生じやすい微生物、及び野外微生物環境変化の指標となる微生物を対象として、関係機関から各種微生物株の収集を行っている。収集した微生物株については、血清型別等を実施し、それらの試験成績に関する情報提供をしており、令和2年度に収集した豚丹毒菌についての調査成績をまとめたので、その概要を報告する。

1. 豚丹毒菌

豚丹毒菌の血清型別については、菌株の加熱抽出抗原を用いた寒天ゲル内沈降反応により実施した。令和2年度に1県から収集された合計3株の血清型別の結果は、すべて2型であった。

ワクチン株（血清型は1a型）を識別できるとされる SNP-based PCR（Shiraiwaら、J. Microbiol. Method. 117, 2015）については、今回収集した株の血清型が2型であったため実施しなかった。